

令和7年度 第1回
雲南地域保健医療対策会議
医療・介護連携部会 議事録

日時：令和7年6月9日（月）15:30～16:30

場所：雲南保健所 集団指導室

1. 開会あいさつ

（雲南保健所 柳樂所長）

- ・本日は議題が2つあり、例年とは違うタイミングで開催しているが、どちらも大切な内容である。
- ・圏域は今後も人口減少が続き、就労者人口も減少する。医療体制を維持するためにはどう守っていくのか。
- ・国が病床数適正化支援事業として、医療機関に直接金銭補助をしながら病床削減をすすめてきた。どうやっていくのかが問われている。
- ・圏域の医療の未来を見据えて、議題に関しては委員の合意をいただき次のステップに進んでいきたい。

2. 議事

（1）地域医療介護総合確保基金の活用について【資料1-1～3】

- ・雲南市立病院が3階西病棟（一般病床153床）の一部を改修し、ハイケアユニット（以下：HCUという。）を4床作る。それに伴い、既存の急性期病床（一般病床）を6床減床させる。
- ・HCU整備に向け、「しまね型医療提供体制構築事業」の施設整備・設備整備について申請を予定している。
- ・地域医療構想について、HCU4床は変わらず「急性期機能」として報告。
- ・また、現在、雲南医療圏全体の急性期病床・全体病床は過剰にある。今回、雲南市立病院が急性期病床6床を減床させることで、急性期病床及び全体病床数は適正数に近づくため、地域医療構想上特段問題なし。

⇒委員より特に意見なし 承認

（2）第8次島根県保健医療計画の進行管理について【資料2-1～2】

（事務局）

- ・令和7年2月12日に雲南地域保健医療対策会議を開催。その際、第8次島根県保健医療計画における、雲南圏域の重要業績評価指標（KPI）について議論した。
- ・地域医療①の「雲南圏域で研修・勤務する医師数の増加」の項目について、若手医師は35人全員が勤務することは現実的ではないとの意見あり。
- ・そのため、項目を「島根県の地域枠出身及び奨学金・研修資金の貸与を受けた医師のうち、雲南圏域で勤務する医師数の増加」とし、目標値を第7次計画の増加人数と同等の人数の増加数である「28」とした。

⇒委員より特に意見なし 承認

3. 情報提供

(1) 病床数適正化支援事業について【資料3-1~2】

(事務局)

- ・国の補正予算により措置。病床削減を行う医療機関への給付金。
- ・令和7年9月末までに病床削減した医療機関が対象。
- ・4月中旬に国から内示があり、島根県は100床分。
- ・算定方法は、一般会計の繰入がなく、令和4年度から3年連続経営赤字、令和5年度から2年連続赤字かつ令和6年度に病床削減済み。県では、1病院50床を上限に交付。
- ・島根県としては国の支給要件に加え、島根県では独自に「削減しようとする病床は、休床若しくは非稼働状態が1年以上継続している病床であること」を加える。
- ・5/26 医療審議会にて上記内容を盛り込んだ実施方針案が承認された。
- ・県が補助金の要綱、様式等を作成し、手上げた医療機関に送付中。

(2) かものはし在宅クリニックについて【資料4】

(かものはし在宅クリニック 橋本院長)

- ・5月12日に加茂町にて、在宅療養支援診療所として開院。
- ・訪問範囲は、半径16km。掛合町、出雲市斐川町、松江市玉湯町あたりまでカバー。

4. 閉会あいさつ

(雲南保健所 柳樂所長)

- ・昨年の奥出雲病院の病棟改変に続いて、今回は雲南市立病院の病棟改変となった。各医療機関は住民に医療を届けているだけでなく、経営の観点も大切にしておられる。
- ・いままで取れていなかった報酬を取って収益を上げようということ。
- ・決してお金儲けではなく、圏域の医療の質を上げ、持続可能性のためのとても大切な取り組み。

決定事項

- ・雲南市立病院の基金の活用について
- ・第8次島根県保健医療計画の地域医療に関するKPI案を承認